

令和3年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 4【号】



幼児期からの学びの基盤づくり

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

保育室でふらふらしていると、園児のA君に「紙飛行機を折って～」と頼まれ、折り紙を手渡された。おあいご用だと思いきや何気なく作って手渡したところ、「これは紙飛行機じゃない」と言われてしまった。(写真1)

どうやら、A君の知っている紙飛行機とは形が違って、自分が知っている形状以外のものは異質に感じ、紙飛行機だとは認められないらしかった。

ところで、子どもの頃、私の好きな遊びのひとつは紙飛行機だった。当時は家の近くに空き地があり、そこが近所の子どもの遊び場だった。幼児や学童など異年齢の子どもがいつも混ざり合って遊んでおり、私はその遊びの中で紙飛行機づくりを覚えた。よく飛ぶ紙飛行機を作るにはどうすればいいか様々な折り方を試し、形状を工夫した。ある時、私より年上の子が、垂直尾翼のある紙飛行機を折って持ってきた。(写真2)

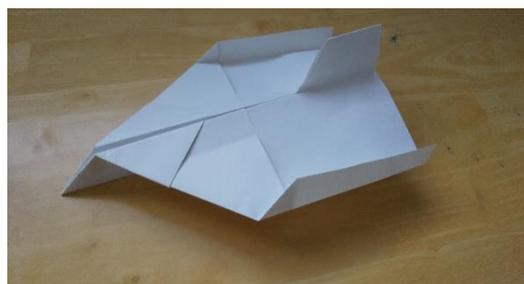
私はその紙飛行機に魅了された。今まで見たこともなかった。どうやって作るのか知りたかった。しかし、その年上の子は、いくら作り方を教えてくれと頼んでも教えてはくれなかった。私は、垂直尾翼を備えたその紙飛行機をどうしても作りたかった。そこで、これまで身につけた紙飛行機の折り方に関する知識と経験をもとに、考え、試行錯誤を繰り返し、何度も失敗を重ね、ようやく作り上げることができた。

折り紙で作成できる紙飛行機の種類はひとつだけではない。様々な種類のものがある。しかし、A君はまだそれが理解できない。「多種多様性の理解」が必要である。いわば、「みんなちがってみんないい」の理解である。そのためには、「真実の探求」や「本質の見極め」など、そこに至る学びの姿勢、いわば「学びの基盤」づくりが欠かせない。

「知識」や「経験」をもとに試行錯誤や工夫等、「学び」に向かうことができるようになるためには、「遊び」を通して培う「幼児期からの学びの基盤づくり」が重要なのである。



(写真1)



(写真2)